

# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

11

Number

17

2023年4月20日



第5回組紐国際会議 基調講演「ノールウェーの織紐」Randi Stoltz

## 目次 Contents

第5回組紐国際会議「Braids 2022」報告	吉田有夫子・高木たまき	2
貝殻つなぎと3D貝殻つなぎ	西 幾代・多田牧子	8
2021・2022年度ワークショップの全記録		12
組紐・組物学会会告		14

## In this issue

5th International Conference on Braids	Yuko Yoshida and Tamaki Takagi	2
Kaigara Tsunagi and its 3D Development	Ikuyo Nishi and Makiko Tada	8
Review of the all workshops in 2021 and 2022		12
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		14

## 組紐・組物学会ニュースレター

第11巻 通算17号 2023年4月20日発行  
編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院  
大谷研究室内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
TEL: (075)724-7905 E-mail: miyakoinoda1@gmail.com  
本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。



# 組紐国際会議

## Braids 2022 Svendborg 報告

吉田有夫子・高木たまき

Appendix: 多田牧子



(写真1) Randi Stoltz の組紐作品

### 1. はじめに

第5回目の国際会議となる Braids 2022 が 2022 年 8 月 21 日～ 26 日に、デンマークのスベンボーにて開催されました。今回のテーマである「Nordic and world braids and bands」にふさわしく、著名な作家や研究者による組紐のレクチャーやワークショップが充実していました。新型コロナウイルスの影響や世界情勢が不安定な状況でしたが、16ヶ国から 101 名 (+ 同伴者 14 名) が参加して無事に執り行われました。日本からの参加者は 6 名 (+ オンライン 2 名) でした。事情により直前で参加できなくなったりする方もいて、急遽他の先生方がワークショップを担当したりと多少のドタバタがありました。海に面したローケーションが素晴らしいホテルの中で、レクチャー、ワークショップ、宿泊が完結していたので、全体的にこじんまりとしていてアットホームな雰囲気が漂う会議でした (写真 2)。またオンラインでワークショップを行う試みも本会議の特徴です。

### 2. プログラム概要

#### (1) 基調講演

朝は毎日 2 つの会場で、また月、火、木は夕方にも基調講演が行われ、15 名の作家・研究者による講演を聞くことができました。今回はデンマーク開催ということもあり、織物をテーマとした講演が充実していました。

#### (2) ワークショップ

毎日様々なワークショップが開催されました。組紐のクラスが多く、著名な先生方から教わることで、織り手にとっては夢のようなプログラムとなりました。今回はテイスターセッションと呼ばれる半日の体験クラスがあり、通常のクラス以外にも様々なハンドクラフトを気軽に体験できました。著名な作家・研究者 35 人によるワークショップは、2 日間が 10 クラス、1 日が 25 クラス、加えてテイスターセッションが 10 クラス開催されました。

#### (3) 作品展示

ワークショップ講師 24 名の作品が展示され、様々なテクニックの素晴らしい作品が一堂に並びました。最終日には、会期中に作製された参加者達の作品の一部も展示され、本当に多様なクラスがあったことが実感できる、見ていてとても楽しい展示となりました。(写真 1)

#### (4) イベント

パーティーやバザール、イブニングクルーズ、バスツアーなどが毎日開催され、参加者やワークショップ講師が交流できるいい機会となりました (写真 3)。今回は日本からの参加が少なく結果的にいろんな国の方とテーブルを共にすることが多く、いつもよりも国際交流が盛んでした。



(写真2) 会場ホテルのレストランのテラス

### 3. 基調講演

#### (1) Nordic レクチャー

Ulla Mannering「古代デンマークのブレイドとコード」

デンマークでは、様々な繊維や動物の革で作られた紐や帯が出土しています。それらは単純な紐から高度な織物や組物のバンドまで多岐にわたります。ウラ・マナリング氏は、石器時代からバイキング時代まで年代を追って説明しました。

Bente Skogsaas「ノルウェーのオーセベリのバンド」

ノルウェーのオーセベリで発掘された船葬には、身分の高い二人の女性のために添えられた衣服、シルク、タペストリーと52本の美しい織紐が発見されました。Bente Skogsaas氏は、タブレットで組まれたバンドのうち10本を分析し復元を試みたが、ほとんどは状態が悪く復元できなかったエピソードを紹介しました。

Sonja Berlin「タブレット織りアート」

Noomi i Dalí「フェロー諸島のブレイドとバンド」

Katia Johansen「デンマークからブレイドとバンドが姿を消す前に」

Anna Nordström「フィンランドのバンドの新解釈」

Charlotte Rimstad「バイキング衣装復元用のバンド」

Anna Ciuck Sjurson「サーミのバンドの歴史と技術」

Sjurson氏はSami人のルーツを持つNorway人で、現

在Samiのバンドやドレスなどを製作し、生活の中に取り入れる活動しています。DUODJIというSamiのHand craftをどう守り伝えていくかについて講演しました。

Randi Stoltz「ノルウェーのバンド」

2千年の歴史をもつNorwayのBand weavingの研究者で、織り手としても一流。現在Norway Vestlands地方の19世紀のバンドの120通りの模様再現のプロジェクトに取り組んでいます。

Ragnheidur Thórsdóttir「アイスランドの織紐と組紐」

#### (2) レクチャー

Keiko Kusakabe「インドネシアのカード織物」 Indonesian card weaving

日下部啓子氏に代わり Sandra Sardjono氏が講演を行い、バンドや衣服の写真と共にスラウェシ島におけるタブレット織りのバンドの分布を紹介しました。また高度なタブレット織の技法と、いくつかのバンドの起源に関する歴史的な誤解について説明しました。

Lena Bjerregaard「フィスト ブレイディング」Fist braiding

Joy Boutrup「伝統的なヨーロッパのループ操作法」 Traditional European loop braiding

Anna Sparr「19世紀のヘアー ブレイディング パターンブック」 19th century Hairwork Pattern Books



(写真3) バザール

Louise Ström「生活のためのハンドクラフト、それともハンドクラフトのための生活？」Handicraft for living – or – Living for handicraft?

#### 4. ワークショップ

##### (1) 丸台クラス

Makiko Tada「創作組紐」

多田牧子理事が京都からオンラインで教えるクラスでは、ディスクあり、丸台あり、高台あり。レベルや道具を問わず様々な組紐が参加者が組んでいました。通りすがりの会議参加者がカメラ越しに画面の先生と会話する、自由で楽しい雰囲気は漂うクラスでした。(P.7参照)

Yuko Yoshida「8+4組」

既存の8玉の技法に4玉を加える創作組紐のクラスでは、みなさん最初は頭をひねりながら苦戦していましたが、講師やほかの参加者にヒントをもらいながら最終的には様々な模様の組紐を作製していました。(写真4)

Shirly Berlin「始めと終わり」

Masumi Tada「オクトプレートで作る質感のある組紐」

参加者は、多田真純先生考案の様々なテクスチャーの組紐をオクトプレートで作成する方法を学びました。オクトプレート初心者から上級者まで楽しめるクラスです。オクトプレートは、組紐ディスクより幅の広いものもできる新しいプレートです。このクラスでは、湾曲した組紐、ねじれた組紐、蛇行した組紐などの新しいタイプの組紐を作成しました。これらの型にはまらない組紐スタイルには、現代的なジュエリーや衣服の縁取りのブレードなど、多くのデザインの可能性があります。

Dian Watanabe「丸台組紐でパターンを楽しむ」

Dian Watanabe「丸台のすべて」

##### (2) ループ操作

Jacqui Carey「クテ打ち：鎧の組紐」

武士の鎧の組紐を紹介し、クテ打ちのテクニックを学ぶクラスです。紐を組むだけでなく、簡単な構造の分析も行い、その結果を用いて紐を復元したり、新しいデザインを作る方法も説明されました。

Joy Boutrup「ループ操作」

Noomi i Dali「フェロー諸島の組紐」



(写真4) 吉田クラス



(写真5) Nordström クラス

##### (3) プライスプリットブレイディング

Katoko Kitade「ライスプリット：ブローチとネックレス」

カラフルな和紙の糸を用いてブローチを作製するクラスでした。美しいカーブを描く作品はとても素敵で喜ばれていました。

Erroll Nelson Pires「Helicoid Spiral Structure in Ply split Braiding」

2日クラスでしたが、Erroll 先生が直前で来られなくなったため、急遽、北出香都子先生とジュリー・ヘッジ先生が1日ずつ担当しました。急遽依頼されたため準備期間や材料に限られていましたが、両先生とも素敵なワークショップを用意してくださいました。

Julie Hedges「サラカツアニのライスプリット ダーニング技法」

Julie Hedges「ライスプリット：POT と SCOT 技法で作る小さな皿」

##### (4) Rigid heddle/Inkle weaving

Shahla Amini「Iranian Band Weaving Techniques」

Susan Foulkes「Weaving a Sámi Belt with a Siggá heddle」

模様を織り出しやすく考案された Siggá heddle を使用し、毛糸でブロック模様の紐を織るクラスでした。ハートや花などの模様ではなく、もう一つのサーミ独特の織り方です。バンド織は織物なので、通常よこ糸はたて糸の間を往復し2回で模様を出しますが、この織り方は3回で1段になるという大変珍しい織り方です。

Marieke Kranenburg「Crossed-warp Inkle Technique」

Anna Nordström「Finnish Rigid Heddle Earrings and Bracelets」(写真5)

Ane Rasmussen「Weaving Bands with Color Effects」

Dee Sayce「Inkle Bands on a Backstrap Loom」

バンド織のたて糸の張り方、織り出す模様のチャート(設計図)を書くことを学びました。参加者が持参した



(写真6) 高木クラス



(写真7) ウェルカムパーティ



(写真9) イブニングクルーズ

Heddle に色々な種類があり、それも新しい発見でした。  
Tamaki Takagi 「Tubular Sanada-himo Band」

真田紐は一重と袋状の袋織があります。講師が考案した袋織用の Heddle を使用しての Workshop でした。袋織がこんなシンプルな道具で織れたと参加者には楽しんで頂けた様でした。プロジェクトを使用し、93 歳の真田紐師、市村藤斉氏の制作の様子も紹介しました。(写真6)

### (5) Tablet Weaving

Inge Dam 「Tablet Weaving for Beginners」

Rasmus Jørgensen 「Tablet-woven Iron Age and Viking bands」

Keiko Kusakabe 「Toraja-Mamasa Tablet Weaving from Sulawesi, Indonesia」

John Mullarkey 「Coptic Diamonds Tablet Weaving Cancelled」

John Mullarkey 「6 Hole Tablet Weaving」

Bente Skogsaa 「Weaving Oseberg Band 34D」

Cathy Smith 「Brocade Tablet Weaving: St Cuthbert's Girdle」

Randi Stoltz 「Tablet-woven Blindheim Bands」

Louise Ström 「Advanced Tablet Weaving」

Ragnheidur Thórsdóttir 「Icelandic Tablet Woven Letter Braids」

### (6) その他

Bodil Dago 「スブラングの初級コース」

Carol James 「スブラングレース」

Ilta Hämäri 「針綴じ」

Annette Herbst 「ホイップコード」

Ziggy Rytka 「ルーセット」

### [7] ティスターセッション

Gil Dye 「ヨークシャー ボタン」

テンプレート上に刺繍糸と針を使って丸いカバーを作

(写真8) フェアウェルディナー



り、それでボタンやコイン等をくるんで仕上げます。途中で色も自由に変えられるので、みなさんカラフルでかわい作品をたくさん作っていました。

Noomi i Dali 「Faroe Island Fingerwoven garter」

Jean Leader 「指で行うルー プ操作の紹介」

Katoko Kitade 「プライスプリット プレスレット」

Louise Ström 「Fast Band Weaving Technique」

講師考案のシンプルな Inkle loom で縞模様の紐を織りました。シャトル (杼) は使わず、よこ糸は小さな棒に巻いて手に握り、打ち込みにナイフを使用。アンティークの真鍮の重たいナイフがとても使いやすく、これも一つの方法と思いました。

Laura Thode 「パスマントリー」

Randi Stoltz 「Forgotten Norwegian Tablet Weaving Technique」

Susan Foulkes 「Mystery Weaving Disc for Cords」

Ilta Hämäri 「針綴じ」

Anna Ciucka Sjursen 「Finishing Sami Bands」

## 5. 作品展示

講師および生徒の作品展示がありました。今回は組紐よりも織紐系の作品展示が多かったように思いました。プログラムも北欧の織紐が多く、Nordic bands を紹介したいという主催者の意志が強く感じられた Braids2022 でした。

## 6. 国際交流

### (1) パーティ

到着日には、カジュアルなウェルカムパーティが開催され、再会を喜んだり、新しい出会いを楽しみました(写真7)。月曜、木曜はバザールが開催され、参加者の作品、道具、書籍など様々な物が販売されました。フェアウェルディナーでは、アンデルセンと童話に出てくるキャラクターに扮した一団が現れ、お話と歌とダンスで場を盛り上げてくれました(写真8)。夕食をいただきながら Braids 2022 の思い出を話したり、Braids 2022 の実行委員の方々に感謝のプレゼントを贈ったりと、最後の夜を楽しく過ごしました。そして、お待ちかねの次回の Braids 開催地の発表ですが、アメリカとだけ発表され、具体的



(写真10) リネン博物館

な地名はお預けとなりました。

## (2) クルーズ

火曜にはイブニングクルーズが企画され、タパスボックスを片手にデンマークの街並みを水上から楽しみました。タパスはハムやパテとパンというとても肉々しい内容で、ワインのおつまみにピッタリでしたが、残念ながらノンアルコールでした。緯度が高く日が暮れるのが遅いので、8時を過ぎててもまだ明るく十分景色を堪能できました。(写真9)

## (3) バスツアー

水曜日には、バスツアーに出かけ、Manor House(領主の家)やリネン博物館を見学しました。さすがは北欧で、日本では高級外車とされるVolvo製のバスでした。リネン博物館には小さなショップがあり、リネン製品や糸が販売されていたのですが、みなさん爆買いでレジの前には長蛇の列ができていました。やはり糸や布には目がないようです。(写真10)

## 7. その他

今回のプロシーディングは赤を基調としたバンドや紐が並ぶ素敵な表紙でした(写真11)。グッディバッグは黒いバッグに青や赤の布が縫い付けられ、「Braids 2022」と刻印された革のタグと木村章子さん作のチャームが付けられていました(写真12)。ネームプレートにも素敵



(写真11) プロシーディングス



(写真12) 参加者に配布されたグッディバッグ

な紐があしらわれていましたが、ちょっと名前が見つらいのが難点でした。特筆すべき参加者としてルーセット講師の Ziggy Rytka 氏、通称「ルーセットおじさん」があり、とても可愛い作品を服や靴につけているのでひときわ目を引く存在でした。とてもお話好きの男性で、声をかけるのにはなかなか勇気がいりました(一声かけたが最後、しばらくはその場を離れられない)。

## 8. 終わりに

今回はヨーロッパ開催で、ただでさえ日本から遠いのですが、ロシア上空を飛ぶことができず、長い距離を乗り継いで行く必要がありました。またコロナの影響もあり日本からの参加者は少ないのがさみしくもありました。次回の Braids までには、平和で安全な日常が戻るよう切に願います。そして、大勢でわいわい言いながら参加できますように!



参加者全員

## Appendix

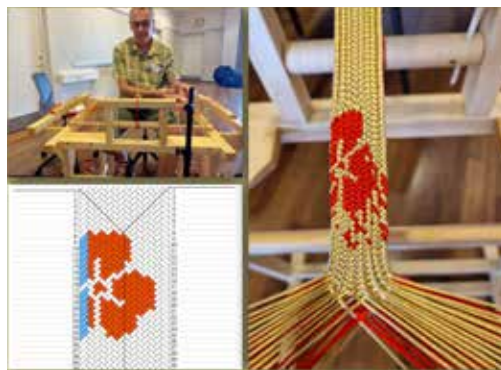
# Online で臨んだ Braids 2022

多田牧子

主催者に、もう1年延ばしてもらって、皆様と一緒に気持ちよく参加したかった Braids 2022 でしたが、私は Online で参加いたしました。最初、私はコロナ禍でとても参加できないと、クラスのキャンセルを申し出ましたが、組紐のクラスが少ないということで、Online で行うことになったのです。

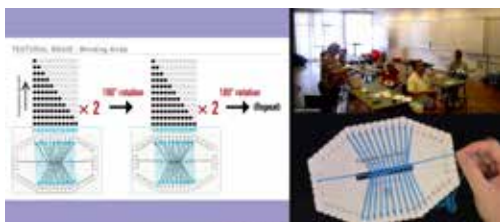
組紐・組物学会のオンラインワークショップはいつも1時間半くらいですが、Braids 2022 では、デンマークの時間に合わせて、日本では夕方4時から夜の12時まで、途中でデンマークは昼食、こちらでは夕食の時間をはさみながら、私としては強行軍でした。

こちらからの Zoom で組んでいるところなどの映像をスクリーンでお見せして、教室での参加者全体の様子を映すカメラと作成している手元を写すカメラの2台で、指導したり間違いを正したり質問に答えたりしました。私の方も Zoom 画面と手元をお見せできるカメラを別に用意して、その場で手取りをお見せしたりもしました。画面から手を伸ばして間違いを直せないもどかしさはありませんでしたが、オンラインクラスの開催の仕方への勉強になりました。また高台でも準備をきちんとすれば、ワークショップができることがわかって、大変自信になりました。



多田真純は出発直前に急遽参加をとり止めなければいけない状態になりました。しかしビデオやレシピなど準備は万全にしてありましたので、そのまま、オンラインのクラスを多田牧子の補助で行いました。オクトプレートでの楽しいクラスで、中にはオクトプレートで組構造がわかった人は丸台でも組んでみたいと思いきい楽しんでいただけたようです。

また、私が受け持ったクラスの会場は、皆様の通り道にあたっていたようで、色々な人がきては手を振ったり、挨拶をしてくださったり、実際に行っていないのですが、リアルタイムなので友人たちと挨拶を交わすことができました。





### 1. はじめに

創作の組紐には色々なタイプがありますが、今回ご紹介する「貝殻つなぎ」は「聖組」という既存の組み方に、丸台を回転させて組み方向を変えて、かわいい貝殻の形を作るものです。つまり、「聖組」を1工程組んだ後に、丸台を90度回転させ、全ての糸を入れ替えてくびれを作り、また丸台を90度回転させて、最初に戻るという組み方です。組み方向を変えるとというのが新しいと思います。

そしてその「貝殻つなぎ」の最初の丸台90度回転した後、縦方向で行った最初の組み方を横方向でも続け、立体的な組紐にしたのが「3D 貝殻つなぎ」です。このように丸台を回転させて新しい組み方を創作するのも楽しいと思います。どうぞ色々な組み方でお試してください。

本稿は2021年8月のオンラインワークショップ「貝殻つなぎ」と2022年5月の「3D 貝殻つなぎ」をまとめたものです。

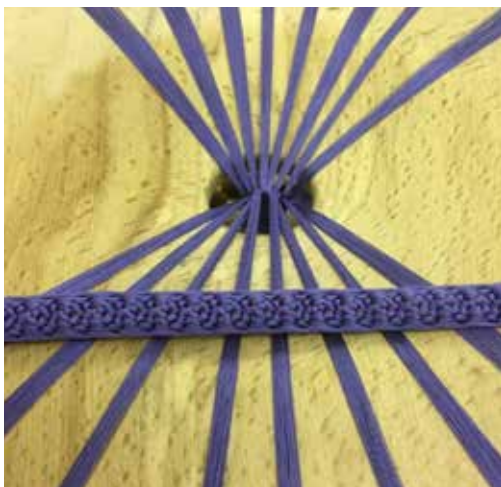


図1 聖組



図2 貝殻つなぎのネックレス (西幾代)



## 2. 貝殻つなぎ

貝殻をつなげたような可愛い組紐です。パールやビーズを加えると、さらに可愛くなってネックレスに最適です。下の写真のサンプル1~4の作り方です。



1 24玉の貝殻つなぎ

2 16玉 パール使用

中央にパールやビーズを入れる場合、手前中央にパールやビーズを通した糸をセットし、台を90度回転する前にパールやビーズを落とす。手前の糸を左右に移動するときは、パールやビーズの入った糸の下を通る。

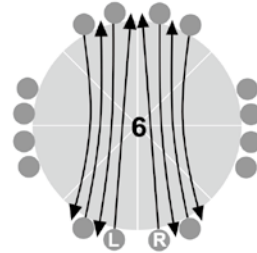
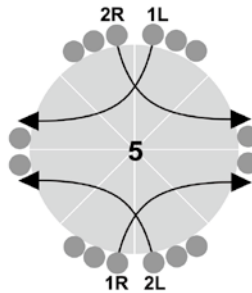
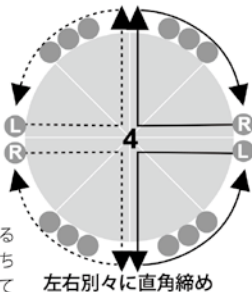
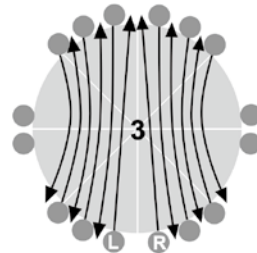
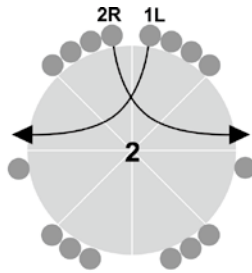
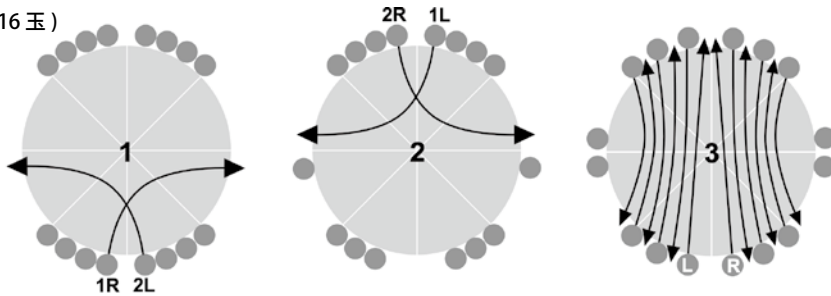
3 上記2にビーズを使用したもの

4 16玉 ビーズ使用

横に交互にビーズを入れる場合、左右どちらかにビーズを通した糸をセットし、90度回転する前にビーズを落とし、糸を反対側へ移動する。

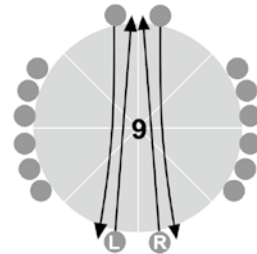
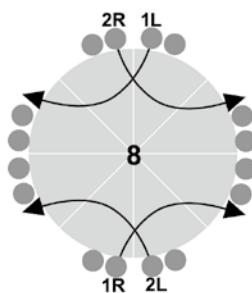
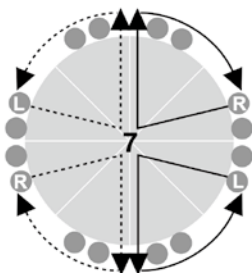
図3 貝殻つなぎ(16玉)

©Ikuyo Nishi



直角締めとは引き締める糸を鏡穴の真上まで持ち上げ、南北方向に開いて引き締めること。

左右別々に直角締め



10 直角締めの後、丸台を右方向に90度回す。

11 上下入れ替えの後、丸台を左方向に90度回す。

12 最初の配置になるように、横位置の糸を縦位置に移動させる。

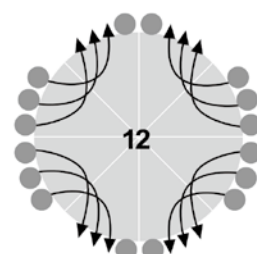
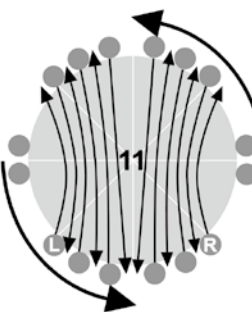
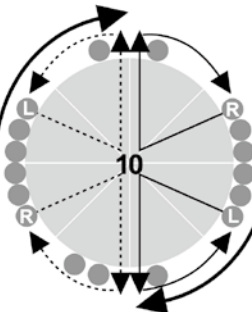




図4 貝殻つなぎ参考作品 (吉田有夫子)



図5 貝殻つなぎ参考作品 (阿倍佳子)

図7(1) 3D 貝殻つなぎ (24玉) ©Makiko Tada

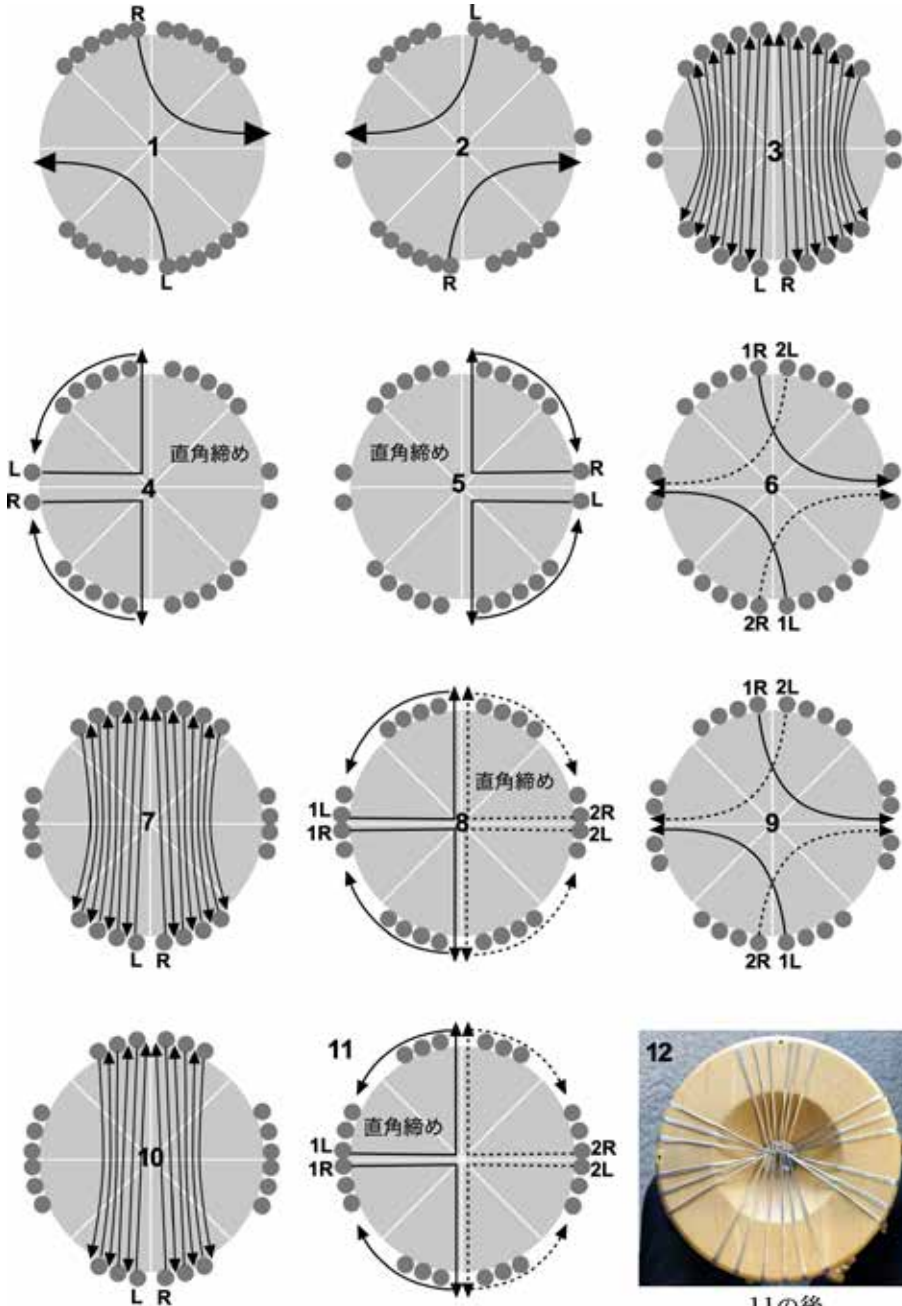
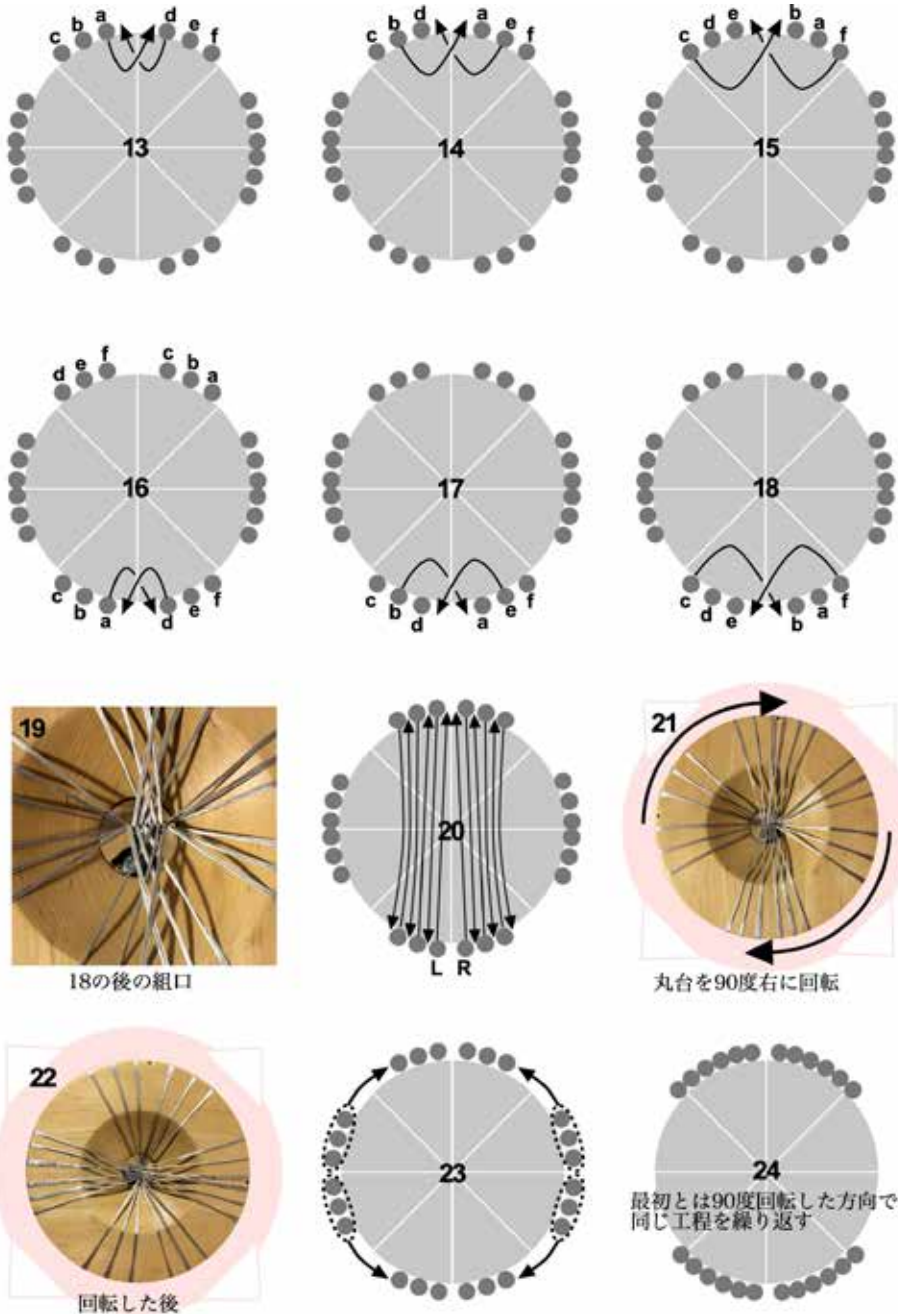




図6 貝殻つなぎ (左)・3D 貝殻つなぎ (右) 参考作品 (多田牧子)

図7(2) 3D 貝殻つなぎ (24玉) ©Makiko Tada





「金剛組アンバランス」  
2021年4月10日(土) 多田牧子



初めてのオンラインワークショップを77名のご参加で開催、アメリカからも Adrienne Gaskell さんと Rosalie Neilson さんをご参加くださいました。テーマは「吊り重り無し」、この金剛組アンバランス「バロック金剛」は出来上がりはちょっと重たくて固いのですが、型崩れが少なく美しく、ネックレスにとっても適しています。

「オクトプレートで組む安田組 + 変わりささなみ組の2種混合組」2021年10月16日(土) 多田真純



「安田組 + 変わりささなみ組」は膨らみがあり、立体的で素敵な組紐です。オクトプレートで楽しく組むことができます。段数や組む方向を変えて新感覚の組紐ができます。また Adrienne Gaskell 先生がビーズ組紐のお話をしてくださいました。

「内記返し」  
2021年6月12日(土) 多田牧子



内記返しは右回り A と左回り B の組み合わせで色々な模様を組むことができます。初めにディスクでの組み方、次に丸台での組み方を解説、各自で実習していただき、さらに、ご自分で新しい模様を作り出していただきました。参加者は56名でした。

「ねじれ老松と平老松」  
2021年12月11日(土) 丸山文乃



丸山先生ご研究の「老松組を楽しむシリーズ・その3」です。色々なタイプの老松組を各自、組紐ディスクで実習いたしました。平老松はこれまでにないタイプのリバーシブルの組紐で、アクセサリーや帯締めにも活用範囲の広いと考えられます。

「貝殻つなぎ」  
2021年8月21日(土) 西 幾代



「貝殻つなぎ」はかわいい貝殻がつながったような素敵な組紐です。パールやビーズを加えると、さらに可愛くなってネックレスにぴったりです。参加者は45人、国外からはアメリカからロザリー・ネルソンさんご夫妻が、ペルーから瀬尾ユキさんをご参加くださいました。

「4+4組」  
2022年2月12日(土) 吉田有夫子



新しい組紐の創作方法をたくさんの例をあげて解説、実際に手を動かすワークショップとしてはうねりのある面白い紐とお花にも見える可愛い「4+4組」を2種、組紐ディスクで実習いたしました。いろいろな組紐の創作方法がわかる楽しいワークショップでした。



「8玉 変り鎖つなぎ組」

2022年4月9日(土) 木村章子



木村先生考案の「変り鎖つなぎ」と「ZS 合わせ金剛組」の2種を、組紐ディスクで実習しました。もちろん丸台でも組むことができます。それぞれの組み方で手順を2回3回と組み合わせると新しい表情の組紐もできます。さらに新しい組紐を創作する手掛かりとなりそうです。

「アルワコ族の平紐 - ラテンアメリカ先住民の手の技」

2022年9月24日(土) 佃由紀子



アルワコ族の平紐は、ループ状にした糸の移動・交換で作る組紐ですが、クテ打とは違う技法です。ループ状の糸をその輪を広げるように両手で左右に分け、まず片方を組み、その組み目をループを伝わせて反対側に表出させ一体化させるという独特な技法です。

「3D 貝殻つなぎ・平ねじり組」

2022年5月14日(土) 多田牧子



総会の後にワークショップを行いました。西幾代先生考案の貝殻つなぎを回転させて立体的にした3D 貝殻つなぎと、平金剛と八つ瀬や江戸八つを組み合わせ、ねじり連続模様を組み出す平ねじり組を丸台とディスクで製作しました。どちらもアクセサリに最適です。

「丸四つプラス」

2022年12月3日(土) 三上扶実子



色々な八つ組に丸四つを足したものと、八つ組を分解してそれぞれに丸四つを足した三上先生考案の創作の組紐です。たくさんの創作の中から3種類の組み方を実習しました。平角八つくずしと丸四つを組み合わせた「うねり角組」は緩やかなうねりで、ネックレスなどに向いています。

「奥ゆるぎと平ゆるぎ」

2022年6月11日(土) 小嶋博子



「奥ゆるぎ」は表と裏の真ん中に溝ができ、側面は3畝となるととても美しい厚平組です。チョーカーなどにピッタリの組み方です。「平ゆるぎ」は薄めで品が良く帯締めに向いています。どちらも小嶋先生考案の後世伝統となるような美しい組紐です。

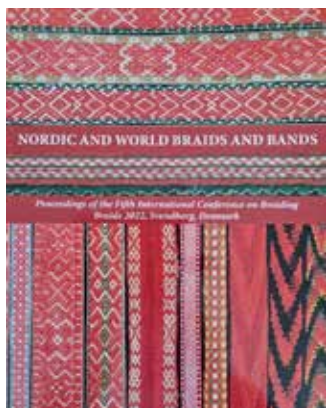
「巖島組」

2023年2月11日(土) 北原文代



巖島神社の平家納経に使われている経巻の紐「巖島組」のクテ打ワークショップです。まずは本歌より少なめの糸で、簡略巖島組として、巖島組特有のテクニックを実習し、その後、ビデオで本歌制作の方法を学びました。平家納経のお話もとても興味深いものでした。

## 新しい組紐の本



- 書名：「Nordic and World Braids and Bands」
- 編集：Katia Johansen
- 体裁：ソフトカバー 224 頁、フルカラー
- 定価：38 GBP 約 6800 円（税込）
- 発行：Marayana Press 2022 年 8 月
- ISBN：9788799207411

### 講演録

- Bente Skogass: A glimpse into tablet weaving from early Viking times
- Ulla Mannering & Charlotte Rimstad: The Danish prehistoric cord and band tradition
- Randi Stoltz: Band weaving in Norway over 2000 years
- Ragnheidur Thorsdottir: Table weaving in Iceland
- Sonja Berlin: Why choose tablet weaving?
- Anna Sjursen: Sami weaving, traditions and techniques
- Noomi I Dali: Faroese cords bands, braids and garters
- Katia Johansen: After the Vikings: The decline of hands in Denmark

### 論文（下線は日本からの寄稿者）

**Kumihimo** – Shirley Berlin (Canada), Makiko Tada & Masumi Tada (Japan), Diane Watanabe (Japan), Bob Galivan (USA), Yuko Yoshida (Japan)

**Kuteuchi, Loop Braiding** – Masumi Tada (Japan), Jacqui Carey (UK), Jean Leader (UK), Joy Boutrup (Denmark)

**Cords, Whipcording, Lucet** – Annette Herbst, Ziggy Rytka (UK), Georgia Olsen (USA)

**Ply Split Braiding** – Julie Hedges (UK), Katoko Kitade (Japan), Erroll Pires (India)

**Rigid Heddle, Inkle** – Shahla Amini (Iran), Susan Foulkes (UK), Ane Rasmussen (Denmark), Dee Sayce (UK), Tamaki Takagi (Japan), Laura Thode (USA), Marieke Kranenberg (Netherlands)

**Sprang** – Carol James (Canada), Bodil Dago (Norway)

**Tablet weaving** – Inge Dam (Canada), Bente Skogass (Norway), Rasmus Jorgensen (Denmark), Cathy Smith

(UK), Randi Stoltz (Norway), Louise Strom (Sweden), Keiko Kusakabe (Japan), John Mullarkey (USA)

**Other techniques** – Anna Sparr (Denmark), Ilta Hamari (Finland), Gil Dye (UK), Lena Bjerresgard (Denmark)



かつてのアンデス地方には高度な組紐文化が発展し、その名品がリマの博物館に保存されている。筆者はこれらの調査を行い、その復元を行っている。組紐制作は現在でもペルーの幾つかの地域に残っているが、筆者はこれらの村を訪問して直接指導を受けており、その結果も収録されている。

- 書名：「アンデスの組紐を訪ねて」
- 著者：青柳淑枝
- 体裁：B5 版、ソフトカバー 60 頁、フルカラー
- 定価：1650 円（税込）
- 発行：(株) テクスト 2020 年 4 月 20 日
- ISBN：9784925252348



本書は同名の展示会（松屋銀座 2021 年 1 月）の開催に併せて刊行された図録である。古代アンデスの投石紐・平紐、平安・鎌倉時代の名品の複製、そして現代の全く新しい組紐まで、2500 年の歴史を画像で解説。巻末にある多くの文献解題は有用です。

- 書名：「組紐の 2500 年」
- 著者：多田牧子
- 体裁：B5 版、ソフトカバー 68 頁、フルカラー
- 定価：1650 円（税込）
- 発行：(株) テクスト 2020 年 12 月 25 日
- ISBN：9784925252355

## 第12回組物検定 京都

第12回の組物検定試験は2023年12月9～10日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。1・2級高台試験は伊賀廣澤工房の予定（日にち未定）です。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。学会ホームページもご参照下さい。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

綾竹台作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台1枚物作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組

みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。

### ■合否判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

### ■受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は8000円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点などがございます。組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室内

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7905、E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

### ■匠検定（日時等は廣澤工房にお問い合わせ下さい）

筆記試験のない実技のみの試験として「匠検定」があります。実技試験は1級より難しく、高台2枚物の技能を伊賀組紐の基準によって検定します。匠検定から受験する方は丸台の試験もあります。また2年以内に製作した作品2点以上を提出して頂きます。



2019年12月 実技試験

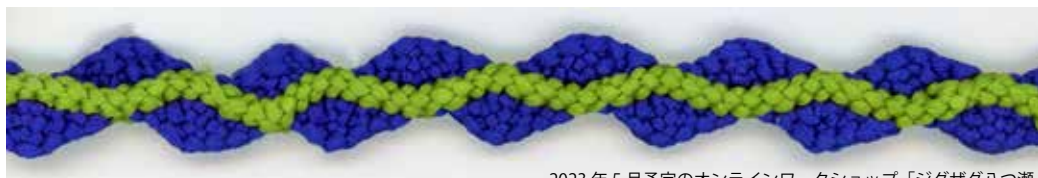
## 第11回組物検定 京都

第11回の組物検定試験は2022年11月20日に伊賀の廣澤工房で行われました。2020年と2021年は検定試験が実施できず、今回も講習などによる準備や移動が制限される中の試験ということもあって、今回の合格者はいませんでした。

1級合格者は、「組紐・組物学会認定講師」となり、組紐指導者として活躍しています。認定証の授与の他、学会の支援による個展の開催や、名刺（学会ロゴ入り）を学会が制作します。認定講師は現在、小嶋博子、西幾代、丸山文乃、岡本睦子、清澤澄江、三上扶実子、銭谷信子、吉田有夫子、鈴置有子（敬称略）の9名です。従来、個展の際に個別の作品図録も制作していましたが、昨今の事情に鑑み、図録の印刷内容と同じ情報（各認定講師のプロフィールと作品写真）を学会のWeb上で公開に変更する予定です。

## ワークショップ予定 2023-2024

- 第1回ワークショップ（定例総会后オンライン）  
5月13日（土）13:00～14:30 多田牧子
- 第2回ワークショップ（オンライン）  
6月10日（土）13:00～14:30 西 幾代
- 第3回ワークショップ（オンライン）  
8月5日（土）13:00～14:30 丸山文乃
- 第4回ワークショップ（対面：京都工芸繊維大学）  
10月17日（火）～19日（木）10:30～16:00  
エイドリアン・ガスケル
- 第5回ワークショップ（対面：京都工芸繊維大学）  
12月2日（土）10:30～16:00 岡本睦子
- 第6回ワークショップ（対面：日本女子大学）  
2024年2月10日（土）10:30～16:00 鈴置有子



2023年5月予定のオンラインワークショップ「ジグザグ八つ瀬」

### 役員

- 会長  
仲井朝美：岐阜大学工学部
- 副会長  
西 幾代：組紐研究者  
松梨久仁子：日本女子大学
- 理事  
荒川光久：全国くみひも教材センター  
上田隆久：日本ピラー（株）  
魚住忠司：村田機械（株）  
大谷章夫：京都工芸繊維大学  
北村雅之：北陸ファイバークラス（株）  
倉谷泰成：（株）カドコーポレーション  
多田牧子：組紐研究者  
寺本 靖：（有）寺本文化財工芸社  
西本博之：武田薬品工業（株）  
濱田泰以：（株）伝統みらい  
濱中知子：ハマナカ（株）  
廣澤浩一：廣澤徳三郎工房  
圓井 良：圓井繊維機械（株）  
渡辺一生：渡敬（株）

### 事務局

- 猪田宮子：京都工芸繊維大学  
（メールアドレスが変更になりました）



### 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院  
大谷研究室内  
〒606-8585  
京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
Tel: (075)724-7905  
E-mail: miyakoinoda1@gmail.com  
www.kumihimo-society.org  
ご入会、ワークショップ、組紐  
検定、シンポジウム講演、作品・  
製品展参加のお申し込みはこ  
ちらをお願いします。